令和５(2023)年度　学校マネジメントシート

学校名（　　津商業高等学校　　）

１　目指す姿

(1)目指す学校像		「全力津商」の精神のもと、商業の見方や考え方を重視した学校教育を通して「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育み、地域社会に貢献できる人材を輩出する学校
(2)	育みたい児童生徒像	・自他を尊重するとともに、規範意識と倫理観を大切にする人間性豊かな生徒 ・自らの可能性に挑戦し、「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につけ、新たな課題の発見と解決に積極的に取り組む生徒
	ありたい教職員像	・法令を遵守するとともに、授業力等の資質向上に向け、自己研鑽に励む教職員 ・目指す学校像、育みたい生徒像の実現に向け、情報共有と意思疎通を進めつつ互いに協力し、創意工夫を図る教職員集団

２　現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生　徒＞部活動を含め充実した高校生活を送ることを通して、学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現することを期待している。 ＜保護者＞子どもが安全･安心な学校生活を送るとともに、学校生活全体を通じた人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。 ＜地　域＞学校の取組により、地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域の教育力を学校が活用し、社会に貢献する意欲や態度をともに育成することを期待している。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家　庭＞ 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加 ＜中学校＞ 卒業生の様子、入試情報などの共有 ＜地域企業・事業所＞ 地域産業の担い手としての人材の育成	＜家　庭＞ 本校教育活動への理解と連携協力 ＜中学校＞ 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有 ＜地域企業・事業所＞ 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力
(3)前年度の学校関係者評価等	・津商業高校では、挨拶励行や交通マナーの良さが風土として定着してきている。この風土を重んじる校風を今後も継続させていって欲しい。 ・地元企業と連携した商品開発や販売促進活動、津駅周辺の将来像に関する企画提案の取組など、教室で知識として学ぶだけでなく、産業界や地域行政等と連携・協働したビジネスの視点を重視した学習活動を一層充実していく必要がある。このような取組が新聞等のメディアや学校 web ページで発信されることで、津商業高校の生徒たちの活動がより分かりやすくなった。 ・学校生活アンケートを通して生徒の実態を把握することは学校教育の充実に向けて必要なことであり、傾向を分析し、成果と課題を明確にしていく必要がある。今後も 7 つの分野について集約し学校教育の充実に向けて取り組んでいって欲しい。 ・自己評価シートは、個々の生徒の自己肯定感等を把握する方法として大変有効と考える。個別面談等の機会にフィードバック等に活用し、人間的成長に繋げていって欲しい。 ・付けたい力の共通理解を生徒と教員間で深めるとともに、課題研究等の探究的な学びを経験した生徒の変容を把握し、付けたい力がどの様に変化したのか検証（生徒に自己評価させることも含む）していくことが大切である。また、生徒自身が考えて行動できるよう、自主・自立を一層促していくためには、学校教育活動のあらゆる場面を通じて生徒と適切なコミュニケーションを積み重ねていく事が大切である。 ・生徒と向き合う時間や自己研鑽の機会等を増やしていくため、教員一人一人が意識して働き方改革に取り組むことが必要である。 ・ICT を効果的に活用した授業実践等を積み重ね、その成果を教員全体で共有していくことが必要である。	

(4) 現状と課題	教育活動	・資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。また、進学希望者の割合が多く、就職と進学の両面の支援充実に向け、計画的・系統的なキャリア教育を一層推進する必要がある。 ・新学習指導要領の実現に向け、「主体的で・対話的で・深い学び」の視点での授業内容の改善や 3 観点での評価方法等について実践や研究を重ねてきた。教科の枠を超えて成果と課題を共有し、一層の充実改善に努めていく必要がある。 ・生徒の自主・自立を一層促すため、生徒が主体的に学校生活や規則・マナーについて考える機会を増やしていく必要がある。 ・文武両道の理念のもと、ICT 機器や一人一台端末を有効に活用した授業実践や学習方法の研究を進め、より一層生徒や保護者の期待に応えていく必要がある。
	学校運営等	・独立商業高校の特色ある教育活動として、地元企業や商工会議所等との連携を図り、教育活動の充実改善に取り組んできた。今後も、２学科の特色ある教育活動の充実を一層図るとともに、その魅力を分かりやすく地域等に発信していく必要がある。 ・働き方改革に関する取組については、校内の諸活動のスクラップアンドビルド、組織と業務の精査、部活動指導等教員の意識改革も含めて、今後も継続して取り組み、中長期的な視点に立って改善していく必要がある。

３　中長期的な重点目標

教育活動	・本校が定める付けたい力の育成に向け、学習活動、学校行事、部活動、進路指導、生徒指導人権教育等の学校教育の全ての機会を通して、生徒が主体的に考え、自ら気づいた課題の解決や探究的な活動の支援に努め、その変容を生徒と共通認識し、生徒と教職員が共に成長できる学校教育の実現に努める。 ・ICT や学習端末を効果的に活用する等、基礎学力の充実に取り組むとともに、商業の専門的知識や技術の習得、産業界や地域等と連携し専門性を活かした地域課題等の解決に向けたビジネスの視点を重視した探究活動など実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組を通して、地域社会の発展に貢献する人材を輩出する商業高校を目指す。
学校運営等	・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会に PR し、商業高校・各学科の存在価値について広く理解を得る。 特に、商業教育を通して産業界や地域等と連携し専門性を活かした地域課題等の解決に向けたビジネスの視点を重視した探究活動など、実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組を分かりやすく発信する事に努める。 ・保護者や地域社会からの信頼と協力を一層得るため、全教職員の授業公開や評価手法の研究等を通しての授業改善、コンプライアンス研修等を通しての信頼される学校づくり、生徒の主体性を引き出す適切な生徒支援など、教職員の更なる意識改革と資質向上を目指す。 ・学級減に関連した教職員数の減少に対応した働き方改革に向けて、目的の明確化および共有を進め、組織的な業務の見直し、ICT の効果的な活用などを進めることで上限時間縮減等につなげ、働きやすい職場環境づくりを推進する。

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備

			考
学習指導の充実	(1)幅広い学力層の生徒に応じた分かりやすい授業づくりの推進 ICT 等を活用して個別最適な学びと協働的で深い学びを推進し、生徒が主体的に探究する授業づくりに取り組む。 【活動指標】 ・ICT 教育推進委員会 (3 回) ・教職員研修 (3 回) 【成果指標】学校生活満足度調査（生徒） ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 (80%以上) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 (80%以上) (2) 産業界や地域等と連携し専門性を活かした地域課題等の解決に向けたビジネスの視点を重視した探究活動など、実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組等を通して「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。 【活動指標】 ・外部講師招聘や地元企業・行政等と連携した学習の発信 (15 回以上) 【成果指標】付けたい力に関するアンケート（生徒） ・「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が高まったと思う生徒の割合 (70%以上) (3)学習成果の評価手法の確立 新学習指導要領が学年進行する中、観点別評価を検証し職員間での共有を図り、実践を積み上げる。 【活動指標】 ・教員研修 (3 回) 【成果指標】学校生活満足度調査（生徒） ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 (80%以上) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 (80%以上)	・実社会との繋がりの中で主体性と協働性を育むビジネス探究プログラムの開発を行った。(編集中) ・ICT の活用に向けた教員研修会（２回） ●授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 5 年：83%（4 年：79%） ●学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 5 年：75%（4 年：72%） ・地域と連携した地域課題解決型の探究活動の充実 3 年生　課題研究 ●付けたい力に関する変容把握 〇前に踏み出す力：90% 〇考え抜く力：84% 〇チームで働く力：94% ●再掲 5 年：83%（4 年：79%） ●再掲 5 年：75%（4 年：72%）	◎
学校全体で取り組むキャリア教育の充実	(1) 進路指導の充実 望ましい進路選択に向け、進路ガイダンス等の充実とインターンシップの充実を図る。また、教科・各分掌・各学年が協力し、全ての教育活動を通してキャリア発達の促進に関わり、その成果と課題を共有する。 【活動指標】 ・キャリア教育全体計画の検証会議（5 回） ・進路ガイダンスの充実 (1 年 3 回、2 年 4 回、3 年 5 回) ・インターンシップの実施 (2 学期予定) 【成果指標】振り返り調査（生徒） ・自らの進路について考える事が出来たと思う生徒の割合 (65%以上) (2) 生徒指導の充実 社会人として必要な規範意識やマナーについて、3 年間を見通した指導を行い、自主・自立を促すことに努める。また、生徒の主体性を引き出す生徒会活動に努める。 【活動指標】	・学校として、「育みたい力」及び「キャリア教育全体計画」の共通認識を深めた ・カリキュラム委員会（5 回） ・進路ガイダンス（1 年 5 回、2 年 6 回、3 年 8 回） ・インターンシップ実施（7、8 月） ●進路について考える事が出来たと思う生徒の割合 5 年：85%	※

	・頭髪・服装指導　(6 回) ・教職員研修　(2 回) 【成果指標】自尊感情に関するアンケート（生徒） ・自身の事に関する判断や決定は自身で決めたいと思う生徒の割合（７０％以上）	・頭髪・服装指導（6 回） ・生徒の主体性を育むコミュニケーションスキル向上研修（4 回実施） ●自分の判断や行動を信じる事が出来ると思う生徒の割合（74%） ●自分の事は自分で決めたいと思う生徒の割合（94%）	
安心・安全な学校づくり	(1) 人権感覚あふれる心を育む教育の充実 人権教育推進計画にそって教科指導と校内の取組を連携させた教育活動を推進し、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 【活動指標】 ・1 年生の人権フィールドワークとその発表会（2 月予定） 【成果指標】学校生活満足度調査（生徒） ・人権フィールドワーク発表会後のアンケート調査等から取組の成果と課題を把握する。 (2) 命を大切にする心を育む教育の充実 生徒が自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にする態度を育成する。また、学校医・SC・SSW 等と連絡を密にし、生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援に努める。 【活動指標】 ・個人面談　(3 回) ・図書館に命のコーナーを設置　(3 回) ・SC・SSW との協議等　(6 回以上) 【成果指標】 ・人権フィールドワーク発表会後のアンケート調査等から取組の成果と課題を把握する。 ・自尊感情に関するアンケート（生徒） 自己受容や他者との関係及び自己主張が肯定的な生徒の割合（７０％以上） (3) 危機管理意識の向上に向けた取組の推進 新型コロナウイルス感染症予防対策の継続、熱中症対策、不審者対策、防災対策等、生徒自身が自助と共助の行動が取れるよう努める。また、施設・設備における危険リスクの削減・回避にも努める。 【活動指標】 ・保健だよりの発信　(11 回) ・防災訓練等　(3 回) ・学校メール連絡網への加入割合の増加 【成果指標】学校生活満足度調査（生徒） ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合（70%以上）	人権フィールドワーク実施（２月） 社会課題を１２講座に区分し、各生徒が分散し調査研究した内容を発表する。 ●仲間と協力して人権課題に取り組めたと回答する生徒の割合（98%） 保健部講座「こころと体のセルフケア」実施（7 月） ●「振り返りシート」を活用した個別面談 ・個人面談（3 回） ・命のコーナー設置（3 回） ・特別支援教育会議（3 回） ・SC との協議（32 回） ・SSW との協議（19 回） ●自分の事を必要としてくれている人がいると思う生徒の割合（86.7%） ●自分の個性を大切にしたいと思う生徒の割合（95.5%） ・保健たよりの発信（11 回） ・防災訓練（１回実施） ・加入割合（9 割以上） ●安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 5 年：96%	

改善課題

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取り組み	(1)計画的な資質向上への取組 ICT 活用、学習評価、保健、生徒指導、人権教育等に関する研修会を実施し、資質向上に取り組む。 【活動指標】 ・校内研修会の実施　(各 1 回以上) ・教員相互の授業研究　(2 回以上) ・生徒の主体性を引き出す適切な生徒支援研修 (3 回) ・ビジネス探究プログラム作成研修　(3 回) 【成果指標】学校生活満足度調査（生徒） ・授業に満足している生徒の割合　(7 割以上) (2)信頼される教職員集団への取組 ヒヤリハット事例等の共有や教職員一人ひとりが教育活動を自己点検し、コンプライアンス意識の向上に努める。 【活動指標】 ・信頼向上委員会の開催　(5 回) ・コンプライアンス研修　(2 回) 【成果指標】コンプライアンス意識調査（2 回） ・コンプライアンスに関する意識の向上（100%）	各分野に係る研修会(1回以上実施) ・教員による互見授業の実施(2 回実施) ・再掲:・生徒の主体性を育むコミュニケーションスキル向上研修(4 回実施) ・ビジネス探究プログラムの開発を行った。(8 回実施) ●授業に満足している生徒の割合(調査中) ・信頼向上委員会の開催(2 回) ・コンプライアンス向上研修(各学期1回実施) ●コンプライアンスの向上に努める職員の割合(100%) ※ヒヤリハット事案の共有と対策に向けて組織的に対応	
情報提供による信頼の構築	(1)授業、学校行事等の公開 開かれた学校づくりの一環として、生徒の様子や商業高校の学習内容について保護者や地域に理解を深めてもらう。 【活動指標】 ・公開授業等の実施　(3 回以上) 【成果指標】 ・行事参加者アンケートでの満足度　(80%以上) (2)教育活動の成果等を情報提供 商業に関する特色ある教育活動や部活動の成果等に関する情報をウェブページ、インスタグラム等を活用して積極的に発信する。 【活動指標】 ・web 等での情報発信　(100 回以上) ・新聞記事等への掲載　(20 回以上) 【成果指標】　保護者へのアンケート ・学校の様子を理解する保護者の割合が増加	・公開授業等の実施(3回実施) ●文化祭行事における満足度:満足であると回答した生徒の割合(95%) ・web 等での情報発信(100回以上) ・新聞記事等への掲載(20回以上)	
組織運営・働きやすい職場環境づくり	(1) 働き方改革の推進 総勤務時間の縮減に向けて、時間外労働時間の削減に取り組む。 【活動指標】 ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合　(8 割以上) ・部活動で週 1 回以上の休養日を実施できた割合　(100%) ・放課後に開催した会議において 60 分以内に実施で	【働き方改革】 過重労働時間削減に向けた対応策 ・定時退校の取組(90%) ・週 1 回以上の休養日(100%) ・会議時間の設定(78%)	※ ◎

	きた割合　(9 割以上) ・閉校日の設定　(3 日以上) 【成果指標】 ・上限時間月 45 時間超 0 人、年間 360 時間超 0 人 ・時間外労働時間が昨年度を下回った教職員の割合が増加 ・1 人当たりの年間休暇取得日数の増加（前年度比） (2) 円滑な組織運営に向けた対応 　組織運営上の諸課題の解決に向けて、学校への期待・職場の規模・負荷分散等の視点で検証し、組織や業務内容の改善を進める。 【活動指標】 ・学校行事や部活動、会議や出張等の精選 【成果指標】 ・職場の労働環境に満足する教職員の割合が増加（昨年度比） ・職場にやりがいを感じる教職員の割合が増加（昨年度比）	・閉校日の設定（4日実施） ●時間外の現状 80時間超（平均）3名 45時間超（平均）6名 ●職場の労働環境に満足する教職員の割合は昨年度より微減 ●職場にやりがいを感じる教職員の割合は昨年度より微減 ※仕事の量的負担感は昨年度より微増	

改善課題

5　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○教育活動について ・「自己肯定感」や「付けたい力」等の把握に熱心に取り組んでもらっている。今後も継続して生徒の変容把握に努め、生徒支援に活用してもらいたい。 ・アンガーマネジメントや自分の特性・長所を客観的に把握し、生徒自身がマネージメントできるようにつなげていってもらいたい。 ・自分が学んだことをまとめ、分かりやすく伝える力は高くなっていると評価できる。産業界や地域社会と関わる学習活動の機会を通して、課題の探究やプレゼンテーション力向上に継続して取り組んでもらいたい。 ・担任が一人で課題を抱え込むのではなく、外部の人材も含めチームで対応していることは非常に良い事である。生徒にも困ったときには周りに助けを求める「受援力」が必要であることを教えていただきたい。 ・一人ひとりの個性を尊重し、誰一人取り残さず卒業させてほしい。 ○学校運営について ・難しい点も多々あるのは理解できるが、あきらめずに働き方改革を進めてもらいたい。

6　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・「付けたい力」や「自己肯定感」等、生徒の変容把握に努め、傾向を分析し、キャリア教育全体計画の見直し、教育活動の改善を図ると共に、生徒自身が自己管理力を高めることにつながるよう工夫改善する必要がある。 ・産業界や地域等と関わる学習活動を通して、社会課題の探究、提案や発表等を継続して取り組む必要がある。特に、商業教育におけるビジネスの視点を重視した探究的な学習を１年生から推進し、商業科目での拡大を図っていく必要がある。
学校運営についての改善策	・教職員の授業や生徒支援の充実に向け、生徒の主体性を育み、自主・自立を促すため、教職員が学校教育活動のあらゆる場面を通じて生徒の主体性を育むコミュニケーション力等を高めていく必要がある。 ・働き方改革に向けて、日々の業務、校内行事や部活動の見直し等を進めるため、適時性を重視して意見集約を行い検討していく等、計画的に改善していく必要がある。